

保育カンファレンスにおける進行係のあり方 —カンファレンスでの主任保育士の会話に注目して—

若林紀乃¹

A director's manner in teachers' conference : Focusing on conversation of chief teacher in teachers' conference

Sumino Wakabayashi¹

This research examined director's manner through the conversation of a chief teacher in teachers' conference. The results showed that there were the following two roles of the chief teacher. The first role was a mentor which was an information provider as a specialist, and the second one was a facilitator which encouraged all members' conversation in the conference. The role of a facilitator was to encourage all members' conversation and to draw many solutions to the problems discussed in the conference. On the other hand, the role of a mentor was something like the compass which clarified the directivity of the final practice. From this research, in order to make the conference related to actual practices, it was considered to be important that the chief teacher would play the role of a facilitator from beginning to end, and also act as a mentor who gave suitable information when the discussed problem was clarified.

Key Words: teachers' conference, chief teacher, director's manner

問題と目的

近年、保育現場において、保育士の資質を向上させ、保育実践を改善するものとして、保育カンファレンスの重要性が注目されている(森上, 1996)。保育カンファレンスは、保育士が他の保育士と話し合う中で、自らの保育観を振り返り、保育実践の改善点に気づいていくところに大きな意義がある。ただし、カンファレンスが有効に機能しなければ、ただの雑談、事実確認、指導の場に終わってしまう場合もある。

カンファレンスが有効に機能するためには「発言の対等性」、「話の具体性」、「実践との循環性」が必要となる(田代, 1995)。これまで多くの研究において、「話の具体性」、「実践との循環性」に関して、カンファレンスにてビデオを用いることや(例えば、久保寺ら, 2002)、実践記録として保育士が記入する保育記録を活用すること(例えば、秋田ら, 1998)などの具体的方策が検討されてきた。さら

に、「発言の対等性」に関しては、長期にわたるカンファレンス経過の分析から、信頼関係の確立や話し合いへの意欲の重要性(例えば、田中ら, 1996)が示唆されている。

これらの研究は、カンファレンスが有効に機能するための3要因を丹念に検討している点で大きな意義がある。しかしその一方で、実際場面における具体的なカンファレンスの進め方を示唆するまでには至っていない。例えば、各年度の初期段階では互いの信頼関係が確立されておらず、話し合いへの意欲も乏しい場合が多い。このような場合、カンファレンスが有効に機能するための3要因を満たすためには、話し合い方そのものを工夫していく必要があるだろう。また、カンファレンスでの話題は多岐に渡り、その話題の内容によってカンファレンスの進め方は変化すると考えられる。どのような話題であっても、カンファレンスが有効に機能するための3要因(田代, 1995)を満たすためには、カンファレンスの進め方に関する具体的方策が考案されるべきであろう。どのような段階であっても、より迅速にかつ有効的なものとして保育カンファレンスが機能するために、実際に保育者がカンファレンスをどう進行

¹ 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期

していけばよいのかを詳細に検討する必要があると考えられる。

では、保育カンファレンスを有効に機能させるための、具体的な進め方、会話のあり方にはどのようなものが考えられるのだろうか。

実際の発言場面には「主な話題提供者(悩み等を持った保育士)」、「その他の保育士」、「進行係」、といった3者の存在が考えられる。

保育カンファレンスの中で「主な話題提供者」である保育士は、進行係や他の保育士とのやりとりの中で自己の実践を見つめ、実践の諸問題の解決策について気づいていかなければならない。下田(1998)はその「気づき」を具体的なものにしていくためには、社会的問題解決モデルにて提唱されるような、問題提起→問題の明確化→解決策の産出→意志決定→解決策の実施と検証、といった過程をたどることが重要であるとした。さらに下田(1998)によれば、より質の高い解決策が本人の納得のもとに実践と結び付けられるためには、解決策の選択肢が多様であること、出てきた解決策を他の保育士の価値観で評価することなく、本人の意志決定まで判断を保留にすること、などが重要になってくるといわれている。

「その他の保育士」は、自らの経験から、具体的な解決方法を提案したり、自分の体験談を語ることで多様な解決策を提供し、話題提供者である保育士の「解決策の産出」および「解決策の実施と検証」に有効な働きかけをすると考えられる。

さらに、「進行係」は話題提供者の解決を促し、かつ単なる雑談としてカンファレンスが進まないよう会話の方向性を整える重要な役割を担っている。話題提供者の意志決定まで解決策の判断を保留したり、実践への方向性を具体的に示すためには、指針となる進行係の存在はかかせないといえよう。ただし、多くの保育現場においてカンファレンスの進行係は、主に園長や主任といった管理職の保育士が担当しており、これら管理職の保育士は、指導的になりやすく「発言の対等性」を欠くおそれがある。しかし、その一方で、経験を積んだ専門家である管理職の保育士からの情報は、保育実践の改善に有効な場合も多々あることから、進行係である管理職の保育士は以下の2つの役割を果たす必要があると考えられる。

まず、第一に先述のとおり、経験を積んだ専門家としての情報提供の役割がある。野口ら(2001)によると、保育士の専門性向上のためには実践的な指導や援助を与えるメンターとしての管理職保育士の役割が重要であるという。メンターとは、情報提供

などによる支援や、目標達成のための励ましの役割を持つ者のことである。管理職の保育士がカンファレンスを進行していく中で、メンターの役割を担い、指針を提示していくことは、多様な解決策からより有効な解決策を選択する場合に重要な羅針盤になると考えられる。

しかし、指導係ではなく、進行係である以上、他のメンバーと同等の立場で会話を促す役割も担わなくてはならない。そこで、第二に、ファシリテーターとしての役割がある。ファシリテーターとしての役割を考えるためには、主に臨床心理学の分野で活用されているエンカウンターグループのファシリテーターが参考になる。エンカウンターグループとは、一般の個人がグループを形成し、その中の話し合いから心理的成長を求めるもので、ファシリテーターはメンバーと同等の立場で会話を促進する存在である(島瀬, 1992)。ファシリテーターは個人に限らず、グループ全体に目を向け、お互いの発言の中から気づきを促す役割を担うことになる(安部, 2002)。進行係である管理職の保育士が、メンターとしての役割だけでなく、こういったファシリテーターの役割を担うことは、「発言の対等性」を保ちつつ、あくまで話題提供者の判断を待つという点において重要であると考えられる。

このような進行係の2側面により、各年度の初期段階であっても、話し合いに参加しているすべての保育士の「発言の対等性」を保つことで、他の保育士の多様な発言から保育カンファレンスが有効に機能するための要因である「話の具体性」、「実践との循環性」が満たされると考えられる。

そこで本研究では、保育カンファレンスにおける実際の会話について、進行係がメンターとファシリテーターの2つの役割をどのように担い、それによって他の保育士の発言、話題提供者の「気づき」、及びその後の実践活動がどのように変化するのかを探索的に検討する。

特に、話題提供者の「気づき」の過程を社会的問題解決モデルを参考に検討する。

方 法

研究協力園

自由保育形態を主としている私立保育園1園(乳児6クラス、年少児3クラス、年中児2クラス、年長児2クラス)であった。

研究協力園では、月一回、各年齢段階ごとの保育カンファレンスを実施している。カンファレンスメンバーは、園長、教務主任1~2名と、クラス担任、

副担任、及び筆者である。進行係は主に教務主任が務める。カンファレンスは、各保育士が各月における保育の様子や子どもの様子を、題目を決めずに自由に話す形態をとっている。

対象資料

カンファレンス後の保育実践との関連を検討するために、本研究では幼児クラス（年少児3クラス、年中児2クラス、年長児2クラス）のカンファレンスに分析対象資料を限定した。幼児クラスのカンファレンスメンバーは、園長、教務主任といった管理職の保育士1～2名と、年少児クラスでは担任3名副担任1名、年中児クラスでは担任2名副担任1名、年長児クラスでは担任2名副担任1名であった。

カンファレンスレコードは、2002年11月～2003年12月まで計17回のカンファレンスにおける発話記録である。記録係及び筆者が各メンバーの発話を記述・要約した。カンファレンスレコードの中で、特に進行係である教務主任と担任保育士のやりとりが活発であったものを分析対象資料とした。

資料の整理と分析

分析対象資料のそれぞれの会話において、進行係（教務主任）の会話内容などから次のような操作的定義に基づいて、メンターの役割、ファシリテーター的役割が顕著に現れている事例を抽出した。

メンターの役割：経験を積んだ者からの情報提供など、目標達成のための支援の役割を担う（野口、2001）。

ファシリテーター的役割：メンバーと同等の立場で会話を促進し、心理的成長を促す役割を担う（島瀬、1992）。

結果と考察

以下、具体的な保育カンファレンスにおける会話事例から進行係のメンターの役割、ファシリテーター的役割が顕著であった箇所、およびその後の実践を示す。事例の順番は、進行係がメンターの役割のみを果たしていた場合、メンターの役割とファシリテーター的役割を兼ねていた場合である。

紙面の都合上、会話事例は簡略化し記載されている。会話事例中の括弧内は、操作的定義を用いて抽出した進行係の役割である。

<事例1：進行係のメンターの役割（1）>

話題[物理的な保育環境の設定について]

①保育士A：(子どもたちの自立を促す保育を心がけていた。最近、保育環境を整えることで自発

性ができたので、さらにレベルを上げていきたい様子)片づけの時、一緒にしてあげると種類ごとに分けて片づけることができるんです。絵を貼って環境を整えていくと、自分から分けて箱に入れるし。でも絵が小さいと絵と物が同じということがわかりにくいこともあるような・・・、何かいい方法はないですか・・・

②教務主任：老人のように、小さい絵だと見えにくくて分からないというのではなく、「量の認知」という意味で、おもちゃの大きさと絵の大きさが近い方が、それに対比するおもちゃのことを思い起こしやすいということもあるのかもしれないですね。

(メンター)

その後の実践：保育士Aはカンファレンス後絵の大きさを工夫し、子どもたちの自発的な片づけを促進させた。

<事例2：進行係のメンターの役割（2）>

話題[子どもとの関わりについて]

①保育士B：Kくんがお集まりの時リズムなどになると自分からしないと言いつつ出しますが・・・

②教務主任：自意識が強く、自分に自信がないのかな？自信が持てる経験がたくさんできるといいですね。

(メンター)

③保育士B：それにRくん、Sくんは絵本を聞こうとしていないんです・・・

④教務主任：Sくんは絵本経験が少ないのでしょうか。(…省略…) 保護者に本を読んでやってほしいことを伝えたり、保育士も手分けして個人的に読んでやってはどうでしょうか？

(メンター)

一次の月のカンファレンス

⑤保育士B：Kくん、Nくんたちがお集まりに参加しません。Sくん、Rくん、Nくんが落ち着かず、お集まりの途中でいきなりオルガンのスイッチを入れて弾いたり、(…省略…) 雨の日などは途中で流れを止めなければならない位ひどい時もあります。(…省略…) 今はプールなどの発散する遊びがあるけど・・・

⑥教務主任：聞いていてこの状況を保護者に知ってほしいという感じがします。もし必要ならばクラス懇談をしてもいいですが？頻度はどう？

(メンター)

⑦保育士B：そんなに頻繁という感じでは・・・

⑧教務主任：それならば、クラス懇談を開かなければ

ばいけないという状況ではないのですか？

⑨保育士B: そう思います。

その後の実践: 保育士Bはお集まりで叱ることが続き、少し疲れを感じている様子である。

事例1は、具体的な保育環境の設定について、豊かな保育経験を持つ主任保育士からの発達段階を考慮したアドバイスを求めている事例である。この事例では、話題提供者の「気づき」の過程から考えると、①において話題提供者が「問題提起」をしており、それを受けて②にて進行係が「メンター」としてアドバイスを提供していることが分かった。その後、保育士Aは保育実践においてアドバイスを生かしていた。

このように単純で直線的なやりとりがスムーズに展開されたことには以下の理由があると考えられる。保育士Aは①問題提起の段階で「問題の明確化」がなされており、あくまで具体的環境設定へのアドバイスを求めている。そのため②における保育経験豊かな信頼できる主任保育士からのアドバイスは、受け入れやすいものであったため保育士Aが納得のいく形で実践に生かしていったと考えられる。

一方、事例2は、子どもとの関わりについて、問題が明確化されることなく問題提起が繰り返されている事例である。この事例を事例1と同様に話題提供者の「気づき」の過程から考えると、①では話題提供者の「問題提起」があり、それを受けて②において進行係が「メンター」としてアドバイスを提供していることが分かった。しかし、その後事例1とは異なり、③において再び「問題提起」をし、次の月の⑤においても循環を繰り返している状態であった。事例1とは異なり、問題が明確化されないままアドバイスを受けたことで、保育士Bが納得するような解決策は見出されず、実践が改善されることはなかったと考えられる。

このように、事例1と事例2から、進行係としての主任保育士は進行係を担いながらも、有益な情報を提供するなどのメンターとしての役割を果たしていることが分かった。しかし、事例2においてメンターとしてのアドバイスが実践に生かされることはなかった。その要因として、事例2では事例1と異なり、問題提起が幾度となく形を変え提示されており(①③⑤)、問題の明確化が図られていないにも関わらず、進行係である主任保育士が解決策の提案(②④⑥)ばかりを押し付けたことが考えられる。

では、話題提供者が「問題の明確化」を図るためには進行係、および他の保育士はどのような役割を担うべきなのだろうか。

<事例3:メンターとファシリテーターの役割を兼ねた場合(1)>

話題[製作をする子どもとの関わりについて]

①保育士C: 製作があまり盛んにならないんです。落ち着いている子が少しやっているだけで・・・

②教務主任: (他の保育士の意見を待つ。)
(ファシリテーター)

③保育士D: 保育士がついてあげて、大きい模造紙とかで自分達が乗れそうなボート作ったりできましたよ。

④教務主任: 思いもよらないものができる、そんな製作が必要なかしら？
(ファシリテーター)

⑤保育士E: 私は製作も片付けも子どもがやりやすい環境を作っているんです。片付けの時材料の残りに関しても後で使えるかどうか話をしたり・・・

⑥教務主任: 残り物の工夫も一つの環境設定ね。
(ファシリテーター)

⑦保育士C: 環境が作れないというよりも、私自身製作とかに楽しみをそれほど見出せないのかもしれません。

⑧(楽しめない自分についての話が続き、子どもと一緒に楽しんでみることに・・・)

一次の月のカンファレンスー

⑨保育士C: 製作について材料をいろいろ準備したり積極的に取り組んでいます。今、製作がとても盛り上がっているんです。木の実なども使って(…省略…)子どもたちのいろいろな発想がおもしろいですね。

一次の月のカンファレンスー

(他の保育士と製作についての話題が活発になる)

⑩保育士C: 製作が盛り上がったおかげで、プレゼント作りも楽しかったですね。いろいろな材料があつて。

⑪保育士D: 来年のプレゼント作りにむけて編物なんかもしてみましようか。

⑫保育士C: 女の子がもくもくとしそうだし、いいプレゼントになりそうですよね。

⑬教務主任: 少し思うことなのですが、プレゼント作りのための製作なのでしょうか。何のために製作活動が必要なのか、保育として考える事も重要ではないでしょうか？
(メンター)

その後の実践: 各保育士が製作活動を展開する上で、活動一つ一つに対して、楽しむことと同時

に発達段階を考慮した目標を持つ事を意識しはじめた。

<事例4:メンターとファシリテーターの役割を兼ねた場合(2)>

話題[保護者との関わりについて]

①保育士F: 懇談の中でKくんのお母さん達に理解してもらえませんでした。保育園でこんなことが困っていると話す、本人ははずかしがりやなので、ショックを受けたりしないでくださいといわれるんです。(…省略…)Jくんのお母さんは、自分のことを、「家でしつこくしてしまう」などと話してくれますが・・・Jくんは普段の様子と園の様子はかなり違うし・・・でもお母さんに何をいっても、まともにとりあってもらえてないような気がしますし・・・

②教務主任: Jくんのお母さんは、わかっているけれどできない様子なのかな?
(ファシリテーター)

③教務主任: できないことをしたらいいのといわれると「そんなことはわかっている。」と拒否してしまいますよ。
(メンター)

④保育士F: でも、Uちゃんのお母さんのときに、ただ大変ですねということをつつもりでも、子どもをもっていない人にわたしのしんどさがわかるはずがない! というような言い方をされるんです。

⑤教務主任: (保育士Fの発言を待つ。)
(ファシリテーター)

⑥保育士F: ……ただ、こちらが特になにかをしたわけでもないのに、先生にはわからないという言い方をされると・・・

⑦教務主任: とてもむずかしいかもしれませんが、そういわれた時に「そういう言い方をされると、なんだか悲しい。」というようなことを言っておくと、自分の中にしんどい思いが残らずに、自分を守るために必要なと思いますよ。
(メンター)

その後の実践: 話題はここで途切れる。保育士Fはその後数人の保護者との会話の機会が減少したまま、日常の保育に追われている状況である。

事例3は、製作活動をする子ども達との関わりに関する悩みを問題として提起した例である。この場合、問題の真意は子ども達の製作活動のあり方ではなく、保育士C自身の制作活動への意欲にあった。この事例では、話題提供者である保育士の問題提起

の後、②で主任保育士は他のメンバーの発言を誘発するなどのファシリテーターとしての役割を担っていることが分かった。さらに、ファシリテーターの役割は、③において他のメンバーの体験談や豊富な解決策の産出を促していた。このようなファシリテーター的役割を担う進行係と他の保育士との会話の循環が繰り返されるなかで、保育士Cが自分を振り返り、問題を明確化(⑦)していく姿が見られた。そして次の月以降も他のメンバーと話し合う中で、解決策の実施と検証を行っており、新たに子ども達の発想の面白さを発見することができた(⑨⑩)。

さらに興味深いことに、他のメンバーと話題が活発になるにつれて本来の保育における制作活動のあり方を見失いかけている際、教務主任がメンターとして全体の方向性を確認させる場面があった(⑬)。ファシリテーターとして会話を促進し、保育士Cの「気づき」を後押しする役割(②④⑥)とグループ全体の羅針盤としてのメンターの役割(⑬)を使い分けている姿がうかがえた。さらにそれに伴い、話題提供者である保育士Cが、提起した問題の真意を明確化し、納得のいく形で解決策を見出していることが分かった。

一方、事例4は、保護者との関わりに関する話題で、問題を提起した保育士の真意がつかめずに終了している例である。①から④では事例2のように、問題が明確化されないまま、問題提起が繰り返されている。しかし、事例2と異なり、進行係である教務主任は、事例3のように全体的にメンターとファシリテーターの役割を交互に担っていた。では、なぜ事例3はその後の実践に結びつかなかったのだろうか。

④以降の、④保育士Fが再度問題を提起→⑤教務主任がファシリテーターとして保育士Fの発言を促す→⑥保育士Fは問題を明確化しきれない→⑦メンターとして指導をする、といった展開にその原因があると考えられる。事例3と異なり、⑤と⑦の間で他のメンバーの発言を促す行為がなされていないことがある。「先生にはわからない」と言ってくる保護者に対して、他の保育士ならばどのような思いを抱き、どのように対処しているのかといった情報を受け取りながら、話題提供者である保育士が自分について考える時間がなかったことが原因であると考えられる。そのため、⑥における問題の明確化がなされないまま⑦で指導をうける形になってしまい、本人の納得がいく解決策が見出されなかったと考えられる。

このように、事例3や事例4から話題提供者である保育士が問題を明確化するためには、進行係であ

る主任保育士がメンターの役割を果たす前にファシリテーター的役割を担っていることが重要であることが考えられた。

メンターの役割は、話し合いが保育士の興味や楽しみの方向に盛り上がり、流れが保育実践の根本から離れた時、最終的な羅針盤として重要なものである。それは単なる進行係として、話し合いを修正するというよりは、経験を積んだ保育士として保育のあり方を伝え、指導しながら会話を修正する役割を担うものであった。しかし、提起された問題の真意が明確化されていない段階では、ファシリテーターとして問題の明確化、問題の真意の気づきを促す必要があると考えられる。その際、ファシリテーターは、他の保育士の発言を促すことが重要である。他の保育士の考え方、体験談を聞くことで話題提供者は自分の問題を客観的に分析でき、多くの情報の中から自分の納得のいく解決策を見出すことができると考えられる。

また、事例1から事例4までの話題の内容については、緊急に問題解決しなければならない場合、進行係である主任保育士が、メンターとしてのアドバイスを話題提供者の実践に結びつけることができな場面があることが考えられた。事例2においてはクラス崩壊の懸念、事例4では保護者との関わりの困難さということが話題になっており、事例1（道具箱に張り紙をする）や事例3（制作活動のあり方）に比べて保育士がクラスを運営していけるか否かという大きな問題に発展する恐れがあったため、管理者としての立場から迅速な解決を望んでいたと考えられる。緊急に問題を解決しなければならない場合、進行係である主任保育士は解決を急ぎ指導しようとしがちであるが、問題を提起した保育士がその問題の真意を明確化できなければ根本からの解決には結びつかない。進行係である主任保育士は、解決に緊急性を要する話題であるときにこそ、ファシリテーターとしてメンバー全員の発言を促すことに専念し、話題提供者が問題の真意を明確化し納得のいく解決策を産出できるよう時間を与えるべきであると考えられる。

まとめ

本研究は、具体的なカンファレンスの会話内容から進行係の発言と各保育士の発言の関係性を分析し、保育士の「気づき」の過程に進行係がどのように関連しているかを検討したものである。以下に要点をまとめる。

まず第一に、進行係である主任保育士には2つの

役割があることが分かった。1つ目には、経験を積んだ保育の専門化として情報を提供し、実践へと繋がる会話を維持するメンターの役割があった。さらに、2つ目には、メンバー全体の発言を促進し、より多様な解決策を見出すとともに、保育士が自らの問題を明確化するように見守るファシリテーター的役割があることが分かった。その中で、事例1や事例2のように、進行係である主任保育士はメンターの役割のみを担うことはあるものの、ファシリテーター的役割のみに従事することはほとんどないことが分かった。メンターの役割が他の保育士の発言を抑制し話題を中断させてしまうこともあり、ファシリテーターの役割は「発言の対等性」を保つ上でも非常に重要な役割であると考えられる。

また、第二には、話題提供者である保育士が提起した問題を明確化することは非常に困難であることが分かった。問題を明確化するためには、他の保育士が多様な価値観・解決策を提示する必要がある、進行係である主任保育士はメンバー全体の発言を促進するファシリテーターとしての役割に専念することが重要であると考えられる。そして、最終段階において会話の方向性が『保育実践の改善』から反れたときのみ、羅針盤としてメンターの役割を果たすべきであろう。他の保育士からの多様な発言は、「話の具体性」を増し、「実践との循環性」への重要な示唆が得られると考えられる。

さらに、第三には、問題解決に緊急性を要する話題の場合、進行係である主任保育士はメンター的役割のみを担いやすく、その役割が他の保育士の発言を抑制するとともに話題提供者である保育士が問題を明確化する時間を保てなくなってしまうことが分かった。緊急に問題を解決しなければならない場合、進行係である主任保育士は管理職として迅速な解決を望みがちである。しかし、事例3から、話題提供者である保育士によって提起された問題の背景には保育士自身がまだ気づいていない問題の真意が隠されている可能性が示唆された。その際、メンターとして直接アドバイスをする前に、ファシリテーターとして問題を明確化する時間を保つ必要があると考えられる。

保育カンファレンスにおいて管理職である主任保育士が進行係になった場合、そこには、経験に根ざした解決策を見出す方向性を保てるという利点と、「発言の対等性」を保てないという欠点が伴う。進行係として、会話内容に合わせた二つの役割を使い分ける必要があると考えられる。

今後、実践と関連させながら長期的に会話内容の変容を検討する必要があるだろう。

引用文献

- 安部恒久 2002 既知集団を対象としたエンカウンターグループのファシリテーショングループ構造とグループ過程に着目して. 心理臨床学研究, 20, 313-323.
- 秋田喜代美・安見克夫・小林美樹・鳥井亜紀子・寺田清美 1998 1年間の保育記録の省察過程—1人の子どもの育ちをめぐるカンファレンス—. 立教大学心理学科研究年報, 40, 59-72.
- 畠瀬稔 1992 「エンカウンターグループ運動」氏原寛ほか編『心理学臨床大事典』. 培風館, 145-148.
- 久保寺節子・村上恭子・岩崎婉子 2002 ビデオカンファレンスを通して教師の援助を探る—揺れる関係の中で—. 保育学会第55回大会発表論文集, 472-473.
- 森上史朗 1996 保育を開くためのカンファレンス. 発達, 68, 1-4.
- 野口隆子・安見克夫・秋田喜代美 2001 職員会議におけるメンタリング—気になる子をめぐる話りの分析—. 保育学会第54回大会発表論文集, 204-205.
- 下田好行 1998 「問題解決療法」を利用した教師の実践的指導力形成の試み—カンファレンスにおける保育士の気づきに着目して—. 信州大学教育学部紀要, 93, 47-54.
- 田中三保子・榊田正子・吉岡晶子・伊集院理子・上坂元絵里・高橋陽子・尾形節子・田中都慈子 1996 保育カンファレンスの検討—第1部現場の立場から考える—. 保育学研究, 34, 29-34.
- 田代和美 1995 保育カンファレンスの機能についての—考察—. 保育学会第48回大会発表論文集, 14-15.

付記

本論文をまとめるにあたり, ご指導頂きました広島大学大学院教育学研究科 山崎晃教授に深く感謝致します。また, データ収集にあたりご協力頂きました保育園の教務主任の先生ならびに保育士の皆様に厚くお礼申し上げます。